

活動報告

2015年2月より、JEPICA(全国てんかんセンター協議会)のケアツール委員会に当院のてんかん認定看護師が参加しています。

この委員会ではてんかんに関する専門的な教育ツールを作成することを目的とし、西新潟医療センター、長崎医療センター、東北大学などの看護師と協力して定期的に活動をおこなっています。

当院では現在、発作時の看護介入に関するマニュアルの1つとして[発作時対応ビデオ]を作成しています。認定活動日にはより良いマニュアルができるように話し合いをおこなっています。

来期看護研究

てんかん院内認定の活動の一環として定期的に看護研究をおこなっています。来期の研究テーマとして、「てんかんの専門教育」「外来患者のニーズ」の2つをキーワードにして検討しています。

「てんかんの専門教育」

てんかん専門病院で働く看護師として、てんかんに関する知識・看護技術を身につける必要があります。院内てんかん認定看護師活動もその一環として、以前よりてんかんの様々な知識や発作観察、看護介入に関して院内での講義を積極的におこなってきました。

今年度は現任教育プログラムの一環として3回の講義を企画しました。このような専門教育の実践を振り返り、今後より効果的なものにしていく必要があります。

「外来患者のニーズ」

以前より入院前の外来受診の段階の患者様に対して、看護師が介入できることについて検討していました。具体的な介入方法を検討するに当たり、まずは患者様方がどのような要望をもっているのかを知ることが必要だと考えています。

今月の編集者のつぶやき（田尻）

てんかん看護の基本となる発作の観察や介入・病態・治療などは、勉強すればすぐ理解できます。そこから患者教育という段階へステップアップすると、患者さんの変化が見えて看護することが楽しくなります。専門教育のなかで、こういった楽しみが伝えられるようになればいいなあーと考えています。

